

F A D O

57

Outubro 2008

月田秀子ファド倶楽部

TSUQUIDA HIDEKO FADO CLUBE JORNAL

月田秀子の昨日、今日、明日…

アルコールがとんと飲めなくなった。といっても、ライブの前には、ワインもしくはビールを若干飲むことはやめられないが。一時は、全くアルコールなしで過ごした日が続いた。頭が錆びついてゆくようだった。頭は硬直し、何のイメージネーションも湧いてこない。やけに頭の中はクールで心は熱くなってこない。おもしろくない。自分自身がちっともおもしろくない。

服用中の薬を止めたのをきっかけに、晩に、ビールのロング缶1本を飲み始めた。夏の暑さには冷えたビールはたまらない！だが、それだけで、頭がもうろうとなった。それ以上飲む勇気はない。決まってやってくる首のけいれんが怖いのだ。それも眠ろうとすると、襲ってくる。赤い靴の主人公のように私は眠ることも許されずひたすら動き続けなければならないことになる。それがたまらなく恐ろしいのだ。

どうも、「飲めなくなった」というのは、私に限ったことではなさそうだ。かつての飲み仲間たちも口を揃えてそう言う。どうやら人にはそれぞれの酒の壺というのがあって、それが満杯になると、飲めなくなるらしい？

何とも淋しいことだ。

9月は、なぜか立て続けに、映像と雑誌と新聞の取材を受けた。

雑誌の企画書の文章が何とも素晴らしいので、紹介させていただく。

『歴史上最も偉大な楽器、それは“声”である。賛美歌やゴスペルが登場するはるか昔から、人々は信仰心やさまざまな感情を歌うことで表してきた。歌はコミュニケーションの手段であり、癒しだったのだ。』

悲しい時、つらい時、嬉しい時、人は歌を口ずさみ、お気に入りの歌に耳を傾けるはずだ。精神の平衡を保つことが難しいとされる現代社会において、日常生活から失われたかのように見える歌はむしろその存在価値を高めているのではないか。

現代に生きる我々は、類い稀なる歌声の持ち主をディーヴァ（歌姫）として讃え祀る。魂の震えを表すかのようなそのビブラートで、聴くものの魂を癒すディーヴァは現代のシャーマンかもしれない。

なぜ、我々はでディーヴァに魅了されるのだろうか。ポルトガルのファドやアメリカのゴスペル、ブルース、フランスの

シャンソン、イタリアのカンツォーネ、日本の演歌…。エディット・ピアフやエラ・フィッツジェラルド、アリサ・フランクリン、アマリア・ロドリゲス、テレサ・テン…、人生の悲喜交々を歌い、人々の魂を癒してきた伝説の歌姫、新世代の歌姫の肖像を通してその魅力の謎をひもときながら、めくるめくディーヴァの系譜を辿る。

月田秀子さんには、ファドの魅力やファドを歌うこと、アマリア・ロドリゲスとの出会い、月田さんにとって「歌う」こととは？までお伺いできれば幸いです。月田さんのお話を通して、月田さんの魅力はもちろんのこと、「歌」がもつ力とその魅力について迫りたいと思います。ご検討のほど、何とぞよろしく申し上げます。……」

こんな素晴らしい企画書を読んだら、誰も「いや」とは言えないのではないだろうか？ほいほいと取材に応じた月田の開口一番は、「私でいいの？誰かと間違えていない？」でした。会員制の月刊誌「NILE'S NILE」の十月号に載るそうで、許されるなら、いずれ会報誌上でご紹介させていただきたいと思っている。

映像は、BIG MAMAこと、ゴスペルの女王、亀渕友香さんとの対談を中心に、ライブ風景、家での独白シーンを撮った。はたして、皆様のお目に届くかどうか…？

新聞は、11月の新潟でのコンサートの紹介記事で、担当の新潟日報の記者さんは故黒田清氏が主宰していた「窓友会」の会員だったという。黒田清さんがファド倶楽部の会長を引き受けてくださった時のメッセージを思い出した。「なんとなく、放っておけない人というのがいる。月田さんはそんな人だ。一人勝手にファドを歌っている。自分で後援会の名簿を作ったり案内状を送ったりして、黒字になるはずのないコンサートなどを開き、ふうふう言いながらやめようとしなない。大阪の片隅で、それでいてどこへでも飛んでいきそうな垣根のなさ。たよりなさ。そう言えば、ファドにもそんなところがある。ずいぶん前のことだが、ポルトガルの田舎町で、見知らぬ人たちにおいしいポルトをご馳走になった。そのお礼も兼ねて、後援会長を引き受けた。」

黒田さんのあの温かい大阪弁が聞こえてきそう。黒田さんの生きざまは亡くなって8年たった今も、私たちの胸に熱く蘇る。



海老名文化会館での生音コンサート

9月7日、神奈川・海老名文化会館小ホールで、アンデルセン文化事業部主催のコンサートがあった。定員335名の会場に、入場者数は、103名。予想をはるかに下回ったさびしいコンサートだったが、この時とばかり、ノーマイクで臨んだ。声が客席の後ろの方までびんびん響いていたらしい。評判通りかなり響きのいい会場だった。

アンケートも、生音でのライブに満足の声でいっぱいだった。不安はあったものの、予想とおりの反響に胸をなでおろした。

三分の一にも満たない観客だったが、拍手も鳴りがよかった。特に舞台袖のモニターから聞こえてくる迫力のある拍手に、会場のスタッフもびっくりしていた。

主催者のアンデルセン事業部のN氏から、翌日電話があり、入場者数が百名を割ったら、今後の企画は断念しようと思っていたが、なんとか、百名を越すことができたので、今後も引き続きコンサートの企画、主催をしてゆきたいとのうれしいお言葉をいただいた。今のところ、自主企画、主催でのコンサートの目途の立たない月田にとっては、捨てる神あれば拾う神ありの、何ともありがたい話である。

月田秀子ファド倶楽部15周年記念パーティー

お彼岸のお中日、大阪の有志の皆さんの呼びかけで、月田秀子ファド倶楽部創立15周年記念パーティーが大阪・西天満「チルココ」で、65名の皆様のご参加をいただき盛会のうちに終了させていただきました。

ここ一年の月田の不調を御心配下さった皆様に元気な月田をお見せでき、一人一人の顔にほっと安堵の表情と再会できた喜びで、かなり盛り上がったひとときでした。世話人の森本佳明氏の冒頭のあいさつで、「くれぐれも月田さんにお酒を飲ませないでください」というお願いの口上のお蔭で月田にお酒を勧める人もなく、ただただ懐かしい関西のファンの方々の笑顔とやさしい言葉に、子供のように甘え、酔いしれさせていただきました。

ファンの方々の親睦も深まったようで、このようなファド倶楽部が生まれた関西ならではの企画をして下さった世話人の皆様、お墓参りを返上してご参加下さったファンの方々に、ここからお礼を申し上げます。

月田秀子



CD「月田秀子コレクションVol.1」について

去年の夏、ポルトガル映画「遍歴」撮影用の資料（写真、新聞記事、ライブ、コンサートのテープ、ビデオ等）を探すため、「思い出の箱」を開けた。それを機会に、思い出の整理を始めた。ビデオテープはDVDに、カセットテープは、MDもしくはDATにダビングする作業だ。それらの作業は老後の楽しみにとっておいたのだが、折しも体調が悪く、「死ぬ準備」と自分で決め込んでの作業だった。中には、誰にも聴かせたくないひどい「歌」もあり、それは即、廃棄処分にした。同時に、どうしてもとっておきたい録音、録画もあった。

その中から、ファド倶楽部設立15周年の記念盤として、「月田秀子コレクションVol.1」を作ってみようと思いついた。いわゆるファド以外の歌を集めたコンピレーション盤だ。もう二度と、同じ編成で歌うことは不可能な「歌たち」を集めてみた。

時間（日にち）葉のお蔭か、古い失恋の傷跡と同じように、歌詞の間違えもバックとのズレも今ではほとんどわからなくなっている。というより、我ながらよく歌っているな—とったりさえた。それよりも、バックを務めてくれたミュージシャンたちの「熱さ」、新しいものに挑戦する自分のバイタリティーに驚かされた。その歌を歌ったころの思い出がひとつひとつ鮮やかに蘇った。思い出を紡ぎながら、PCを駆使して、曲をつないでいった。気がつくとは首はあせもで真っ赤になっていた。

ファドを選んだ代わりに捨てざるを得なかったシャンソン。ギタリストに去られて、ファドを断念しようとしたこと。ブラジルの歌に挑戦することで、新たな活路を見出そうとしたこと。アルゼンチンのフォルクローレに精神性の高さを教えられたこと。そして、新たなミュージシャン達との出会い。今では、ほとんど奇跡と思われるほどの危うい出会い。その私の歌を聴いてくださった人たち。CDの最後は、そんな聴衆の拍手で終わらせた。

ジャケットをプリントアウトするころは、秋風が涼やかにその紙面を乾かしてくれた。



<収録曲>

カーニバルの朝・生きてるうちにやさしさを・たやすく・丘の上のあばら家・哀詠・海・アンデスの風になりたい・蛇を夢見て・かなうなら・バルデラマ・人生よ ありがとう・燕の終わりに・愛の水中花・大河の一滴
全14曲

好評につき増盤しました！ 定価3000円
「夜のファド FADO NOCTURNO」



お申込方法：月田秀子ファド倶楽部まで、お電話、ファックス、メールにてお申し込みください。
TEL・FAX：03-3776-6238
Mail：info@fado.jp

cartas

大正ファド倶楽部からのお便り

7月20日、大正ファド倶楽部主催の「月田秀子まぐれライブVol.11」は、237名の入場者の外気に負けぬほどの熱気に包まれ無事終了致しました。

そのご報告を兼ねて、以下、聴衆の皆様の声等のエピソードを綴ってみました。

“月田さんって、日本語上手ですね” (日本人やで、月田さんは)

“ええっ!? 帰化してるんですか?” (周りの人たち大笑い)

“か細い身体ですごい声量、マイクなんていらへんネ”

“すごい、すごい……” 初めてコンサートを聴いた方の喜びと驚きの声、声、声。

外では真夏の太陽がガラガラ照り付ける屋下がりのコンサート。皆様の温かいご協力、言うまでもなく秀子さんをはじめ、ギタリストの二人の熱演のお蔭で大盛況にて終演。今回は初めて「大正ファド倶楽部」独自の主催。スタッフ一同、心をひとつにチケット販売、会場準備、アゼリア大正のご好意で特別に二階を開放していただき、飲み物の提供もスムーズに運ぶことができました。

来年も、ぜひやりたいと思っています。なにとぞ、ご協力くださいませ。

終演後、秀子さんの左手の指にできたギターダコ(?)を見せていただきました。翌日から左腕が上がらず鍼治療中ということも聞きました。ぜひ弾き語りを…とお願いし、ご無理させてしまいましたが、初めて秀子さんの弾き語りを聴いた方たちの、喜びと感謝の言葉を聞いていただきたいと思います。

〈お礼とお知らせ〉

昨年のアゼリア大正でのコンサートのDVDを、大正ファド倶楽部で制作、代金はカンパの形で当日販売させていただきました。売上金108,000円は、全額月田秀子ファド倶楽部へカンパさせていただきました。たくさんの方々のご協力ありがとうございました。

尚、今回の平成20年度版DVDを現在制作中です。ご希望の方は下記までお申し込みください。

大正ファド倶楽部代表 井本良子

大正ファド倶楽部

〒551-0012 大阪市大正区平尾4-20-5 喫茶 アルマ気付

電話 06-6552-7053 (昼) 06-6552-3820 (夜)

♪井本さんを初め、大正ファド倶楽部の皆様、本当にご苦労様でした。手作りの真心のこもったご協力に心から感謝いたします。加えて、たくさんのカンパをいただき、ありがとうございました。♪ (月田)

fados canções

TIVE UM CORAÇÃO PERDI-O

Amalia Rodrigues

José Fontes Rocha

Tive um coração perdi-o
Ai quem me dera encontrar
Preso no fundo do rio
Ou afogado no mar

Quem me dera ir embora
Ir embora sem voltar
A morte que me namora
Já me pode vir buscar

Tive um coração perdi-o
Ainda o vou encontrar
Preso no lodo do rio
Ou afogado no mar

失われしわが心

失った私の心
見つけ出すことが できるなら
川の底に沈んでいるのか
海で溺れているのか

消え去りたい
行ったまま戻ることなく
私を惹きつけてやまぬ死よ
早く私を連れ去っておくれ

失った私の心
いまでも探し続けている
川の泥に埋まっているのか
それとも 海で溺れているのか

♪昨年の堺能楽会館でのコンサートの折、大澤徳平館主のご厚意で、能面・小面をつけさせていただいてギターの弾き語りをしたファドです。多くの能のテーマに重なりそうで…。

＜月田秀子のスケジュール＞

11月 3日 (月)	東京・「A Tasca」 *要予約	予約・問合せ: 03-3455-2406	詳細は同封の葉書を参照	25
			料金: 7,000円(ディナー・ワンドリンク・ライブチャージ込み)ライブ: ①20:00 ②21:00 ③22:00	
4日 (火)	東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」 *要予約	予約・問合せ: tel/03-5738-0125		
5日 (水)	「サウダーデの夜 vol.62」(各ステージ20分)	ライブチャージ: 2,500円		
	開場 18:00 ①20:30 ②21:30 ③22:30			
10日 (月)	大阪「帝国ホテルチャペルコンサート」 *要予約	予約・問合せ: tel/06-6881-4650		
	開場 18:30 開演 19:00	入場料: 3,500円		
11日 (火)	大阪・南方「三裕の館」 *要予約	予約・問合せ: tel/06-6304-1745		
	開演 ①20:00 ②21:00	料金: 5,000円 (オードブル・ワイン付)		
12日 (水)	神戸「サロン・ド・あいり」 *要予約	予約・問合せ: tel/078-241-1898		
	開場 18:00 開演 19:00	料金: 5,000円 (料理・ドリンク付)		
14日 (金)	福井・大野「寿楽山」 *要予約	予約・問合せ: tel/0779-66-2455		
	開場 18:30 開演 19:30	料金: 3,500円 (1ドリンク付き)		
15日 (土)	石川「金沢市民芸術村・ミュージック工房」	予約・問合せ: tel/076-232-2424		
	開場 16:30 開演 17:00	料金: 4,000円		
16日 (日)	富山「立山国際ホテル・チャペルコンサート」	予約・問合せ: tel/076-481-1111		
	開場 17:40 開演 18:00	料金: 3,600円 (当日4,000円)		
*7,000円(プチディナーセット付)他、特別宿泊セットもご用意しています。詳しくは立山国際ホテルまで。				
17日 (月)	新潟「市民プラザ」	予約・問合せ: tel/025-243-1800		
	開場 18:00 開演 18:30	(新潟ファド愛好会)		
		チケット: 4,000円(前売り) 4,500円(当日)		
21日 (金)	名古屋「得三」	予約・問合せ: tel/052-332-5820		
	開場 18:00 開演 19:00	(名古屋ファド倶楽部)		
		料金: 4,000円(当日4,500円)		
22日 (土)	京都 ^{じつとく} 「拾得」	予約・問合せ: tel/075-841-1691		
	開場 17:30 開演 19:00	料金: 3,500円(前売り) 4,000円(当日)		
23日 (日)	大阪「堺能楽会館」 *要予約	予約・問合せ: tel/072-233-8188		
	開場 13:30 開演 14:00 チケット: 3,000円(前売り・予約) 4,000円(当日)	(森山事務所)		
12月 8日 (月)	東京・渋谷「マヌエル」 *要予約 (各ステージ30分)	予約・問合せ: tel/03-5738-0125		
	開場 18:00 ライブ: 20:00/21:00 入替なし	ライブチャージ 2,500円		
9日 (火)	東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」 *要予約	予約・問合せ: tel/03-5738-0125		
10日 (水)	「サウダーデの夜 vol.63」(各ステージ20分)	ライブチャージ: 2,500円		
	開場 18:00 ①20:30 ②21:30 ③22:30			
20日 (土)	東京・恵比寿「カーザ・デ・ケージョ」 *要予約	予約・問合せ: tel/03-3473-5525		
	開場 18:30 開演 19:00	会費: 5,000円(ドリンク・チーズ付)		

＜編集後記＞

東京、横浜でライブ、コンサートをして、ファド倶楽部の会員の人たちは皆無に等しい。お酒が飲めない以上に淋しい。会報を出す気力を振り絞る。力み過ぎたか生まれて初めてのぎっくり腰のお出ましと相成り、ファンの顔々を思い出しつつベッドの中。中学の同期生の助っ人たちのお蔭で今回も遅ればせながらの発刊。お便り、投稿切に請う(恋う)。(月田)

月田秀子ファド倶楽部ホームページ

<http://www.fado.jp/>

- 月田秀子ファド倶楽部ジャーナル 第57号
- 2008年10月1日発行(季刊)年4回発行
- 編集・発行「月田秀子ファド倶楽部」事務局
- 〒140-0014 東京都品川区大井7-14-2-301
- TEL&FAX 03-3776-6238